

統合失調症



宣言

明るい
笑顔

すぐ
返事

伝える
元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ



かちどき薬局のブログ
ameblo.jp/kachidoki-blog



Seedling 2019 5月号

統合失調症とは

統合失調症は、およそ100人に1人がかかると言われ、決して珍しい病気ではありません。

特に10代～30代に発症しやすい特徴があります。脳に起こった機能的な変化によって「考えや感情を上手くまとめる力」が少しずつ落ち、幻聴や妄想などの症状があらわれます。

そして少しずつ本来あるべき機能が失われていき、スムーズに日常をおくることが困難になっていきます。しかし、治らない病気ではなく、早期発見により適切な薬物療法を行うことで病気をコントロールしながら社会生活を続けられる方が多くなっています。

発症の原因はわかっていません

今のところはっきりとわかっていませんが、本人の心がけやしつけ、家庭環境に原因があるわけではありません。
※
病気にかかりやすい性質(素因)と
周囲から受ける要因(ストレス)の両方が
関係して発病すると考えられています。

※遺伝、気質・性格、脳の働きや構造の変化によるものがある

症 状

症状は人によって様々ですが、大きく3つに分けられます。

■陽性症状

【妄想】実際にはないことを強く信じてしまう

- ・誰かに付け狙われている
 - ・街を歩いていると通行人が自分を見ている
 - ・自分には特別な力がある
- など

【幻覚】

実際にはない声が聞こえたり、
ないものが見えたりする

～幻聴～

- ・自分を批判するような声が聞こえる
- ・自分の行動を外から実況中継している声が聞こえる
- ・幻聴同士が会話している声が聞こえる

～幻視～

- ・他人には見えないものが見える
- など

【思考障害】

思考が混乱し、考え方に一貫性がなくなる、
会話に脈絡がなくなり、何を話しているのかわからなくなる

- ・自分の考えが周囲に知れわたっている
- ・自分が他人にあやつられている
- ・霊がとりついている

など



～症状～

■陰性症状

【感情の平板化】

気分の落ち込みなどではなく、喜怒哀楽の表現
そのものが乏しくなり、他者の感情表現に
共感することも少なくなる。

【思考の低下】

言葉数が極端に少なくなり、比喩などの
言い回しが使えなかったり、理解できなかったりする。
話しかけられて答えられないことがある。

【意欲の欠如】

自ら何かを行おうとする意欲がなくなる。
周りに興味や関心がなくなる。また、いったん始めた
行動を持続することが難しくなる。

【自閉(社会的引きこもり)】

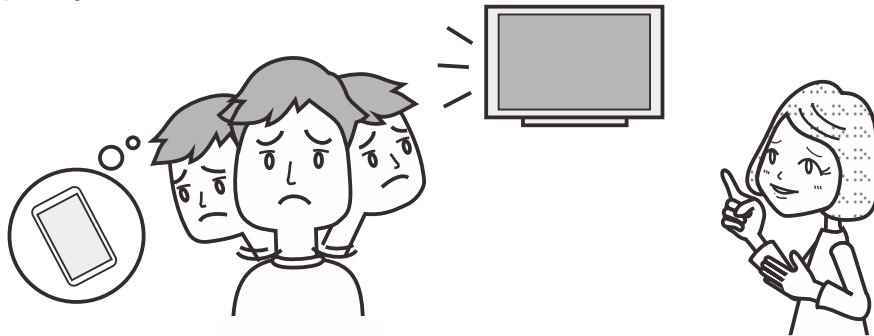
他者とのコミュニケーションを避け、自分の世界に
閉じこもる。ぼんやりと過ごす日々が続く。



■認知機能障害

【注意・集中力の低下】

必要なものだけに注意を集中することができなくなり、仕事・勉強・家事などが今まで通りにできなくなる。また、会話中に周囲の動きや物音などにとらわれて、落ち着きがなくなるなどの行動がみられる。



【記憶力の低下】

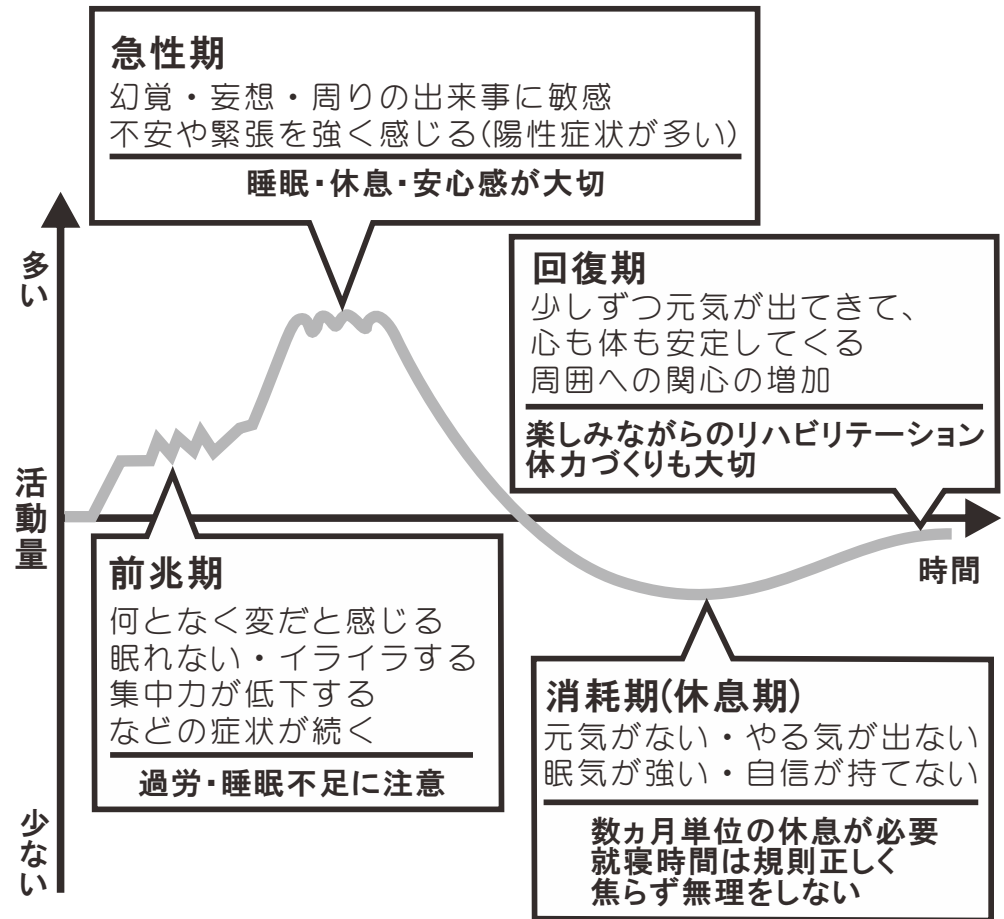
物事を覚えるのに時間がかかるようになったり、ある情報や刺激に対して、過去の記憶と適切に照合することができなくなる。

【判断力の低下】

計画を立てたり、物事を区別して判断することができなくなる。
例えば、整理整頓ができない、手順よく料理ができないなど。

症状の経過

前兆期・急性期・消耗期(休息期)・回復期に分けられ、それぞれの病期で特徴的な症状が認められます。



※不安・孤立・過労・不眠などによるストレスの蓄積は、症状の悪化や再発につながる恐れがあるので注意しましょう。
 ※統合失調症は1日も早く治療を開始したほうが病気の回復が早く、症状も軽く済むことが多いです。まずは専門医に相談しましょう。

治療法

統合失調症の代表的な治療として、薬による治療とリハビリテーションがあります。

薬物療法

症状の緩和や再発の予防に効果が期待できます。主として脳内で過剰に活動している精神伝達物質を調整することで症状を緩和させます。

リハビリテーション

【作業療法】

作業療法士の指導のもと、手工芸、パソコン、体操、園芸、音楽、書道、スポーツなどの軽作業を通じて、楽しみや達成感、充実感といった感情の回復を図ります。

【SST(Social Skills Training: 社会生活技能訓練)】

日常生活や対人関係に必要なスキルを身につけるためにグループでロールプレイ(役割演技)を行います。その後、参加者同士で評価し合います。

【心理教育】

病気の症状や原因、治療法などについて正しい知識を学ぶことで、病気に対する理解を深め、病気との付き合い方や前向きに治療に取り組む姿勢を身につけることができます。

～デイケア～

社会復帰を手助けする場所で、医療機関、精神保健福祉センター、保健所などで行われており、様々なリハビリに取り組むことができます。

まずは相談・受診をしよう

統合失調症は治療の進歩により、回復が格段に改善してきています。早期発見・治療がとても重要となるため、下記のような症状や気になることがある場合は、早めに相談をしましょう。

不眠・集中困難・意欲低下・疲労感・めまい・音や光に敏感になる・焦りの気持ち・気分が変わりやすい など
(5ページにある前兆期のような症状)



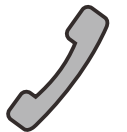
～困ったときの相談先を確認しましょう～

本人だけではなく、ご家族の方も相談できるところが多く、電話受付の窓口もあります。

かかりつけの医療機関、精神科病院・クリニック、保健所、精神保健福祉センター など

『こころの健康相談統一ダイヤル』

0570-064-556



※電話をかけた所在地の精神保健福祉センターなどの公的相談機関につながります。ただし、受付時間・曜日は相談先によって異なります。